

「聖地」認定の粟津温泉

恋人と食べ歩きを

小松市の粟津温泉観光協会は一日までに、地元飲食店と協力し、同温泉街を訪れる若者向けの軽食メニューの開発に乗り出した。昨年七月に県内で唯一の「恋人の聖地」に認定されたことを受け、手軽な「地場産フアストフード」をつくり出し、そぞろ歩きの魅力売り込む。

同温泉には約四百年前から旅館の奉公人お末と竹松の恋物語が語り継がれている。これを受け昨年七月、東京の六本木ヒルズなど全国約五十カ所の観光地とともに、デートにふさわしい「聖地」として選ばれた。

集客効果は徐々に現れ始めているが、二十代の宿泊客の一部から食べ歩

観光協 名物で軽食開発へ



きができる温泉街にしてほしいとの要望が協会側に寄せられ、新メニューの開発に取り組みることになった。二月から温泉街に約二十ある和食店や洋食店、すし店などに、粟津ならではのメニューの考

モニュメントに南京錠と絵馬を結び付ける旅館関係者
 小松市粟津おつしよべ公園

案を依頼した。

現時点で数店舗から甘エビバーガーや日本酒シヤベツト、金時クレープなどのアイデアが寄せられている。今年七月ごろにメニューを完成させる予定で、同協会は「粟津らしい軽食で新たな顧客を掘り起こしたい」としている。

恋の願いを
 取り付けて

モニュメント設置
 粟津温泉観光協会は一日、小松市粟津おつしよ

べ公園に恋愛成就の願いが込められた南京錠や絵馬などを納めるモニュメント一基を設置した。

モニュメントは長さ四尺、高さ二尺のアルミ製で、ステンレスのワイヤが五本通されている。一日は旅館の従業員など約三十人が「恋が解けない」との思いを込めた南京錠などをワイヤに取り付けた。

同市湯上町にはお末と竹松をかたどった二尺四方の写真撮影用看板を置いた。今月下旬までに「恋みくじ」の販売も始める。

南京錠、絵馬のいずれかと護摩木、塗りばしの三点セットは千円で協会に加盟する六旅館で取り扱う。